

留 学 報 告 書

記入日：2013年8月14日



所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部/経済学科/開発経済学専攻
留学先国	イギリス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	マンチェスター大学 The University of Manchester
留学期間	2012年9月～2013年6月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	人文科学学部
帰国年月日	2013年6月21日
明治大学卒業予定年	2015年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期：9月下旬～1月下旬 2学期：1月下旬～6月上旬
学生数	24,867人(学部生)
創立年	1824年

留学費用項目	現地通貨(ポンド)	円	備考
授業料	0ポンド	0円	交換留学であるため支払い義務なし
宿舍費	4,885ポンド	683,900円	以下1ポンド=140円で計算
食費	3,000ポンド	420,000円	
図書費	200ポンド	28,000円	
学用品費	200ポンド	28,000円	
教養娯楽費	200ポンド	28,000円	
被服費	400ポンド	56,000円	
医療費	0ポンド	0円	
保険費	850ポンド	117,980円	形態：東京海上日動
渡航旅費	1,400ポンド	200,000円	片道ごと別々に購入
雑費	1,000ポンド	140,000円	日用品等
その他	2,000ポンド	280,000円	旅行費、交通費
合計	8,500ポンド	1,981,880円	約200万円

渡航関連

渡航経路：行き:成田→ロンドン→マンチェスター / 帰り:ロンドン→イスタンブール→成田

渡航費用

チケットの種類	片道チケット
往路	110,000 円
復路	75,000 円
合計	185,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

H.I.S. (行きのみ)

滞在形態関連

1) 種類 (留学中の滞在先) (例: アパート、大学の宿舎など)

大学の寮

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋 (同居人数)

3) 住居を探した方法:

大学のホームページを通して (留学生は優先的に住居を提供してもらえた)

4) 感想: (滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

1 人部屋で現地の学生 8 人とキッチン等を共有していた。部屋にトイレ、シャワーが完備されていたので値段は高かったが、プライベートの空間は確保されていた。値段を抑えたいなら、トイレ、シャワーを共用の寮にした方が良い。寮の種類は豊富で、キャンパスからの距離に応じて 3 つのエリアがあった。近いほうが周りにスーパーマーケット等もあり便利そうだった。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった
 利用した: 病院には無料でかかれる。

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

留学生向けの事務室のスタッフに相談できた。お願いすれば、大学生活をサポートしてくれるメンターを紹介してもらえる。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

危険地域は主に友人から聞いていた。その地域はキャンパスからは離れており、行く機会はずりなかつたので防犯にあまり心配はしていなかつた。寮には鍵のかかつたドアが 3 つあり安全は確保されていた。実際に危険な目には一度も遭わなかつた。

4) パソコン、携帯電話、インターネット (接続について) 現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であつたので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の自室から有線でインターネットに繋げる。プラグは現地にて無料で支給された。寮には無線ランはなし。大学内ならどこでも wifi 接続が可能で、不自由はしなかつた。携帯電話は現地のプリペイドのものを購入し、月 2000 円くらいでインターネット使い放題だつた。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらつた。銀行口座は現地でも外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地にて銀行口座を開設し、日本から送金してもらつた。奨学金は日本の銀行口座からクレジットカードで利用していた。現地での銀行口座開設は、大学から紹介状を書いてもらえるので簡単だつた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特になし。何でも入手可能。

進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input checked="" type="checkbox"/> その他：1年休学しボランティア活動をする。
2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
キャリアフォーラム、リクルートグローバルキャリア、マイナビ国際派就職
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) 留学後の就職活動でも募集している企業は十分にあることをキャリアフォーラムに参加して感じた。業界も幅広く、留学の経験をフルに活かせれば問題はなさそうだった。中小であれば、リクルートの紹介などからいくらかでもあった。就職活動を理由に留学を断念するのはもったいない。
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。 帰国後休学し、留学経験を活かし海外インターン等、新たな活動をすることもありだと思ふ。必ずしも4年間で卒業する必要はない。留学後の就活だと他の学生も留学の経験者であり、その数は驚くほど多い。それらの学生と差をつけるためにも別のことに挑戦してみることも1つの選択肢としてみては?

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economics for Environmental Management	環境経済学
科目設置学部・研究科	人文科学学部
履修期間	前期(9月~1月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回+2週間に60分が1回
担当教授	Prof. Noel
授業内容	環境問題について経済学的な分析に基づき、その原因や影響を調査する手法を学ぶ。持続可能性を重視したうえで、その問題の解決策を考える。分析のために様々なValuation Methodを学ぶことができる。
試験・課題など	中間に1200字のエッセイの課題。期末に選択肢と記述の試験がある。
感想を自由記入	環境問題の評価方法の分析は数学が多くでてくるため難しかった。分析手法の基礎を学んだので、簡略化された例において分析手法を使うのみで、現実の環境問題にあてはめて分析をすることはなかった。勉強したかった開発学に関連していると思い、履修することにしたが、開発学に深く関わりはない内容を扱っていたため、より専門的な内容になる後期の環境開発学は履修しなかった。

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
Development Economics IIA		開発経済学 2A	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	前期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回+2週間に60分が1回		
担当教授	Prof. Nick		
授業内容	発展途上国の経済成長を分析するための成長モデルや理論を学ぶ。アダムスミスに代表される古典派の理論から、マンチェスターで研究し、ノーベル賞を受賞したアーサールイスの理論まで、1つ1つ学ぶことができる。		
試験・課題など	期末試験のみ。試験は選択問題+エッセイ。エッセイのトピックは事前に教えてもらった。毎回の授業に評価には反映されない小テストがあった。		
感想を自由記入	経済成長に関わる理論を幅広く学ぶことができたので、非常に勉強になった授業だった。教授の説明もわかりやすく、楽しく授業を受けることができた。授業についていけない分には、指定されているテキストで自習すれば追いつくことができた。理論についてが主な内容だったので、実際の国の状況进行分析したり、理論に基づき政策提言をしたりする機会はなかった。基本的な経済の知識があれば授業にはついていけた。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
Business Economics IA		ビジネス経済学	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	前期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回+2週間に60分が1回		
担当教授	Prof. Mario		
授業内容	寡占、独占など様々な市場の状況に応じて、利潤最大化に基づき、その市場の分析手法を学ぶ。内容としてはミクロ経済学を応用したものであった。理論を中心に学ぶため、実際の産業を分析する機会は少なかった。		
試験・課題など	ウェブ上で受ける中間試験と期末試験。内容はどちらも選択問題+エッセイ。		
感想を自由記入	明治大学にて学んだミクロ経済学の延長線上といった内容であったため、授業についていくことはそこまで難しくなかった。指定されたテキストがあったため、それを使って予習復習をすることができた。授業は大学側から録音されており、後からウェブを通してもう一度授業を視聴することができた。内容は面白かったのだが、開発学を中心に履修したいと思っていたため、後期にあるこの授業の続きのIBの授業は履修しなかった。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
Globalozation and Developing Societies		グローバリゼーションと発展する社会	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	前期		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回と60分が1回		
担当教授	Prof. Paul		
授業内容	発展途上国に関わる様々な問題を学ぶことができる。授業内容は幅広く、貧困はもちろん、移民や産業、資源、気候変動など19ものトピックを扱ってくれる。社会学の授業であるため、経済の内容は少ない。		
試験・課題など	中間期の2000字のエッセイと期末試験。試験はエッセイ×2。		
感想を自由記入	19ものトピックがあったので、幅広く学ぶことができ、発展途上国の見方が増えたという点でとても良い授業だった。トピックが多い分1つの内容は薄い、どのトピックに関しても参考文献を提示してもらっていたため、興味があるものについては自力で調べて学ぶことができた。経済のように1つの答えがないため、自分の意見を書くエッセイは難しかった。チュートリアルでは、事前に本を読んで意見を書くという課題がだされ、少人数で毎回ディスカッションがあった。一番課題が多い授業であり、この授業が前期の中で一番大変だった。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
English Language in Use		英語	
科目設置学部・研究科			
履修期間	前期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	少人数のクラス（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に180分が1回		
担当教授			
授業内容	TOEFLの点数が足りていなかったため、履修を義務付けられた英語の授業。内容は英文法や長文を学ぶというのではなく、レポートやエッセイの書き方、プレゼンのやり方など、実践的なものであった。		
試験・課題など	期末にプレゼンとエッセイ		
感想を自由記入	20人くらいの少人数のクラスであったが、履修者はアジア人がほとんどだった。留学先の授業であるからといって、特別な英語学習法などではなく、明治で受けることができる授業とたいして変わらなかった。この授業で英語の力を伸ばせたかはわからないが、レポートやメールの書き方など実際に生活で使えるスキルを学ぶことができた点はよかった。周りの英語のレベルも自分と同じくらいであったため、友達を作りやすく、リラックスして授業をうけることができた。生活に慣れる前の前期の授業として受けることができて良かった。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
An Introduction to Development Studies		開発学入門	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	後期(2月～6月)		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回+2週間に60分が1回		
担当教授	Prof. Nick		
授業内容	2、3年向けのより発展的な開発学の授業に向けて、その基礎的な内容を扱う授業。授業は“発展の意味”から始まり、発展の測定方法や、歴史、また国際機関の紹介など基本的なものを幅広く学ぶことができた。有名な経済学者の本を用いて、開発について様々な側面から考えることができた。		
試験・課題など	期末試験のみ。試験は選択問題+ブックレビュー。授業で扱った5つの本のうちから1つ選び、事前に準備をしてから、そのレビューを試験時間内に書く。		
感想を自由記入	前期に2年生向けの開発学の授業を取っていたが、この授業は1年生向けの基礎的な位置づけにもかかわらず、発展のそもそもの意味や、国際機関の紹介など他の授業では扱わない内容もあったので履修してよかった。授業で紹介された本はどれも興味深い内容で、英語の本を読む良い機会となった。毎回の授業において評価には反映されない小テストが実施され、復習の機会として利用できた。1年生向けであるので、課題も大変なものではなく余裕を持って授業を受けることができた。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
Development Economics IIB		開発経済学 2B	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	後期		
単位数	10		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回+2週間に60分が1回		
担当教授	Prof. Isopi		
授業内容	発展途上国が直面している経済開発の理論や実例を学ぶことができる。基本的な経済成長のモデルや、対外援助の実態、都市と田舎の関係、金融市場と保険などが授業のトピックだった。数学的な考え方が多く、複雑な計算が頻繁に出てきた。		
試験・課題など	中間試験と期末試験。内容はどちらも選択問題とエッセイ。		
感想を自由記入	経済成長モデルを勉強する際に計算が多くでてきたため、授業のその場では理解しきれないことが何回かあった。しかし、復習として何度も計算をするうちに、数字として示されていることから深く経済成長モデルを理解することができた。過去にノーベル賞をマンチェスター大学にて受賞したアースールの理論も授業で扱ってくれた。数学が多かったため、リーディングはあまりなく、課題として出されるものには大きな負担はなかった。授業が8回しかなかったため、広く学ぶには時間が足りなかった。そのため、留学としてたったの1年間だけではなく、正規の学生としてその次の年も、より発展的な開発経済学を学びたいとこの授業は思わせてくれた。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
Political and Economic Anthropology		政治経済の人類学	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	後期		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回と60分が1回		
担当教授	Prof. Gillian		
授業内容	経済や政治を人類学として人を中心とした視点から考える授業。授業では人々が当然だと考える資本主義や市場経済について学び、その是非を検討する。是非を検討するにあたって、資本主義と社会主義、共産主義の違いや、お金の役割、消費と生産、産業化についてなどの意味を学ぶことができる。チュートリアルでは授業で学んだ内容についての文章を読み、ブックレビューを書いて持参し、その内容について議論した。		
試験・課題など	期末期間に4000字のエッセイ提出。毎週のチュートリアルにてブックレビューを提出。		
感想を自由記入	今までは数字を根拠とする経済を学んできたが、この授業では、数字で示される経済ではなく、人類学としての経済や政治の制度について学ぶことができた。授業内容が資本主義や市場経済など当たり前だと思ってきたことについてであったので、自分の考えをこの授業を通して広げることができた。特に人を中心にする授業であったため、一部の人の暮らしを悪化させる可能性のある経済成長に疑問を持つきっかけとなった。開発学とは言えない内容だったが、開発に対する考え方をこの授業で得ることができた。考えを広げることができたことから経済だけではなく他の学問分野を履修して良かった。		

履修した授業科目名（留学先大学言語）：		履修した授業科目名（日本語）：	
Development and Inequality		発展と不平等	
科目設置学部・研究科	人文科学学部		
履修期間	後期		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いて下さい）		
授業形態	講義、チュートリアル（チュートリアル、講義形式等）		
授業時間数	1週間に120分が1回と60分が1回		
担当教授	Prof. Jennifer		
授業内容	地理学の視点から開発について学ぶことができる授業。開発に対する視野を広げるために、内容は開発に関わる様々なトピックについてであり、1つのトピックについて深く学ぶことはなかった。トピックは貧困や紛争、資源、HIV、健康、雇用などミレニアム開発目標として掲げられているものについてが多かった。		
試験・課題など	中間期間にグループワーク。期末期間に2500字のエッセイ。		
感想を自由記入	毎回の授業で異なるトピックについて学ぶことができるため開発学を幅広く学ぶにはうってつけの授業であった。専門的な内容は少なく、授業の内容を理解することはそこまで難しくなかった。グループワークとエッセイにおいて、授業で扱ったトピックの中で自分が興味を持ったものについて調べることになる。グループワークではテーマは自由に決めることができた。政策提言をグループワークとして行ったため、ある政府の開発計画を英文で読んでみるなど実際の経済状況などを分析する機会となりとても良い経験となった。地理学としての授業だったが、あまり地理の要素はなかった。そのため地理学の知識がなくとも履修し、ついていくことができた。先生のサポートが多く、どの課題においても十分なフィードバックが得られた。		

留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
(形式は箇条書きなど簡単なもので構いません)

2012年 1月～3月	2年後期の期末試験に全力で取り組んだ。ここで成績を落としたら留学できなかった。 春休みに TOEFL 受験。
4月～7月	ゼミ開始。留学先でしっかり勉強できるようにするために知識の基礎を固めようとした。 留学先へ提出物がたくさんあったのでその準備をしていた。常に留学に向けてやるべきことがあった。 留学が決まって安心していただけ英語の勉強はあまりしていなかった。 よりよい留学生活を送るためリスニングを中心に勉強すべきだった。5月にはサポーター学生として留学生のサポートをした。
8月～9月	出発前の8月は留学の準備は特になくサークル活動に力を入れていた。 9月10日留学へ出発した。到着後の9月末までは授業はなく、オリエンテーションばかりでありあまりやることはなかった。生活必需品を集めたり、生活に慣れるための日々を送っていた。授業がないため学生との交流があまりなく退屈だった。
10月～12月	10月に入り授業が本格的に始まった。最初1,2カ月は授業についていくのに苦労した。最初の1ヶ月で勉強中心の生活のリズムをつくることができた。生活に慣れた後、土日にはサッカー観戦をしたりハイキングに参加したりする時間を作ることができるようになった。ランゲージエクスチェンジとして友達と一対一で英語と日本語で話すことを始めた。 11月に中間試験があった。 12月のクリスマス休暇を利用しイタリアに旅行した。
2013年 1月～3月	1月の末に前期の期末試験を受けた。 2月から後期が始まった。前期の経験を生かして履修を変更した。月に数回フットサルをするようになった。ロンドンで日系企業の就職説明会を受けた。 3月の中間期間にグループワークをした。イースター休暇を利用して3週間旅行した。イギリスでファームステイの体験をした。
4月～7月	休暇が明けてからエッセイの課題が2つあった。エッセイの提出を終えるとすぐに試験期間に入った。 6月の初めに試験が終わり、帰国が近づき、友達とフェアウェルパーティをした。6月10日にマンチェスターを去り、トルコを旅行してから日本に帰国した。帰国後の6月末に東京のキャリアフォーラムに参加した。 7月に入ってから数社エントリーし、面接を受けた。
8月～9月	休学することを決定し、それに向けて準備を進めた。